【研究ノート】

杉野芳子が新聞記事に掲載した洋裁講座に関する研究

An Investigation into Fashion Lectures Serialized in a Newspaper
by Yoshiko Sugino, Founder of Sugino Gakuen

森　淳子　　井出　千尋
MORI, Junko　　IDE, Chihiro

1．はじめに

異なる文化が伝わり定着するまでには多くの年数を要する。服飾文化も同様である。例えば婦人洋装が日本に定着するまでには、文明開花の明治から大正、そして第二次世界大戦終結数年後[1]までの期間を要した。

しかし和装が長い歴史を経て形成されてきたことに比べると、洋装への変化がわずか100年足らずの間に成し遂げられたことは驚くべきことではないか。この変化を考える上で、先駆者の功績を見過ごすことはできない。杉野学園の創始者である杉野芳子は、こうした日本における婦人洋装化の先駆者の一人であり、教育者、デザイナーであった。[2][3]教育者としての杉野は、自ら創立した学校ドレスメーカー・スクール（現ドレスメーカー学院）における学生に向けた教育活動だけでなく、一般大衆に向けた社会教育活動も講習会等を通じて行っている。

一般紙への洋裁講座の連載も、こうした一般向けの教育活動の一環として行われたものであり、杉野芳子は、「私としても、生徒に教えるだけでなく、新聞というマスコミュニケーションを通じて、目に見えない多くの一般家庭のご婦人に講義できるということは、新しい生き甲斐であり、また常日ごろから考えている洋服の普及のために、この上もないチャンスだと、大変うれしく思いました。」[4]と述べている。

しかし残念なことに、新聞紙上における洋裁講座に関する具体的な実物作品及び資料・記事は、本学園にはほとんど残っていない。洋裁講座は、1926(大正15)年12月７日の読売新聞[5]から連載が開始され、そのうち最初の１頁分だけが、『杉野学園50年史』[6]及び自伝[7]の中で紹介され、今日でも知られているにすぎない。これは、1945（昭和20）年５月29日の東京大空襲により校舎が全焼し[8]、当時の資料等が失われたことが主な原因であると思われる。

和装が中心であった婦人服飾の分野において、洋装の普及・一般化に邁進していった杉野芳子の業績を知るためには、学校教育での活動だけでなく、より広く一般大衆に向けた様々な社会教育活動についても、調査することが必要である。とりわけ、まだ婦人服を着る習慣が根付いていない当時の日本社会においては、学校以外には洋裁を学ぶ手段が少なく、家庭の主婦や働いている一般女性に向けた学びの手段として、杉野芳子が連載する新聞の洋裁講座は、洋装の一般化に重要な役割を果たしていたと思われる。

今回、『杉野学園50年史』及び自伝に紹介された第１回目の記事以降に連載された洋裁講座の記事を収集し、その内容を調査するとともに、さらにその中から１点記事を選び杉野芳子が発表し普及させようとした洋装について、実際に洋服の製作を試み、再現された作品から当時の形を調査研究する。

2．調査方法

調査のための資料としては、読売新聞の記事データベースである「ヨミダス歴史館」を用いて1926（大正15）年12月７日以降に読売新聞に掲載された杉野芳子を扱った記事を調査する。記事の選択にあたり、文中に杉野芳子の署名が入っていること、作り方だけでなく製図も記載されていることの２つを条件とする。

製作については、最初の洋裁講座の記事である1926（大正15）年12月７日の「赤ちゃんのロンパース」の記事を選び、実際に製作を試みる。これは、『杉野学園50年史』及び自伝の中でも紹介され今日でも知られていること及び当時、大変好評であった[9]ことから、選んだ。

表１　読売新聞掲載記事一覧

掲載日	紙誌	面	記事タイトル
1926(大正15)年12月７日	朝刊	3	おむつをおさへて手足も自由になる赤ちやんのロンパース　歐米で今流行してるもの　杉野芳子
1928(昭和３)年４月11日	朝刊	3	坊ちやん方に可愛い鳥打帽　簡單な作り方　ドレスメーカー學院長　杉野芳子
1928(昭和３)年７月20日	朝刊	3	新案　寢冷え知らず　どなたにも出來て便利な物の作り方　ドレスメーカー學院長　杉野芳子
1928(昭和３)年９月７日	朝刊	3	可愛い十四五の子供服の型紙　圖を見てやつてごらん　◇だれにも出來ます
1929(昭和４)年１月22日	朝刊	3	溫かく着心地のよい婦人の西洋寢卷　パジヤマの縫ひかた(上)　杉野芳子氏談
1929(昭和４)年１月23日	朝刊	3	溫かく着心地のよい婦人の西洋寢卷　パジヤマの縫ひかた(下)　杉野芳子氏談
1929(昭和４)年２月23日	朝刊	3	七八歳の子供用洋服のはだ着　和服の下にも着られる　ドレスメーカー女學院長　杉野芳子氏談
1929(昭和４)年３月１日	朝刊	3	七八歳の子供にきせるシュミーズとブルーマー　ドレスメーカー學院　杉野芳子氏談
1929(昭和４)年３月13日	朝刊	3	七八歳の女兒が着るハイカラな通學服　いま流行の上品なスタイル　ドレスメーカー學院　杉野芳子氏談
1929(昭和４)年３月14日	朝刊	3	ハイカラな通學服を着た姿　※
1929(昭和４)年４月18日	朝刊	3	麗かな春の日に似合ふ三四歳用ドレス　ドレスメーカー女學院　杉野芳子氏談
1929(昭和４)年４月27日	朝刊	3	アメリカで大流行の新型ロンパース　簡單で可愛いイタヅラ着　ドレスメーカー女學院　杉野芳子氏談
1929(昭和４)年５月11日	朝刊	3	誰にも似合ひな男兒服の拵へ方【上】四季ともによい型　　ドレスメーカ女學院　杉野芳子
1929(昭和４)年５月14日	朝刊	3	誰が着ても似合ふ男兒服の拵へ方【下】四季ともによい型　ドレスメーカ女學院　杉野芳子
1929(昭和４)年９月３日	朝刊	3	秋は冷えます！子供のパヂヤマを拵へませう　寢冷えせぬ要心に
1931(昭和６)年２月25日	朝刊	9	「ブラウス」だけ春向きのものに　スカートは冬のまゝでも結構まに合ひます
1931(昭和６)年４月18日	朝刊	9	よちゝ歩くお子さんむき　春の可愛いスーツ
1939(昭和14)年８月24日	朝刊	5	髪の亂れを防ぐ新趣向のネツト　雀の巣もこれで救へる
1940(昭和15)年２月６日	朝刊	4	脚の保溫にスパッツ　調和もよく健康美を添へます(上)
1940(昭和15)年２月７日	朝刊	4	粋なレギンスと變りスパツツ(下)
1940(昭和15)年４月６日	朝刊	4	男ズボンで春ジヤケツト　外袖縫目の扱ひ方にご注意
1940(昭和15)年５月７日	朝刊	4	ふだん着の子供服　ジレーで外出着に　揃ひのハンドバツグは可憐です
1940(昭和15)年12月21日	朝刊	4	冬帽を利用して可愛いお子様靴
1941(昭和16)年３月７日	朝刊	4	古いセルを利用　粋なスーツを作る
1941(昭和16)年４月９日	朝刊	4	意匠は思ふまゝ　有り布を利用して出來る
1941(昭和16)年４月10日	朝刊	4	ウール地でサンダル　底はフエルトとボールで
1941(昭和16)年４月11日	朝刊	4	なかゝスマート　ちよつと手を掛けると出來るサンダル
1941(昭和16)年５月21日	朝刊	4	あつさりしたツーピース　ハンカチでアクセントをつける
1941(昭和16)年７月12日	朝刊	5	浴衣より手輕　誰にも似合ふ　具合よい簡單服の作り方
1941(昭和16)年７月18日	朝刊	4	變化のつく替カラー　胸元全體が明るくなる
1941(昭和16)年７月28日	朝刊	4	疊の生活に大變便利　裾よけの様に腰に捲く
1941(昭和16)年11月22日	朝刊	4	可愛い子供もの一揃へ　男物メリヤスシヤツ
1941(昭和16)年12月２日	朝刊	4	男物の古靴下で防寒用長靴　室内ばき・外出用向れも結構
1942(昭和17)年７月17日	朝刊	4	婦人下着は配給晒で　洗濯が利き簡單に出來る

※1929(昭和４)年３月14日記事に関しては、前日３月13日記事の続きであり製図は掲載されていない

表２　読売新聞掲載記事　内容及び材料

掲載日	対象者	内容	材料
1926(大正15)年12月７日	子供	１～２歳用ロンパース	英ネル、地薄ラシャ、ビロード 女子袴用生地等
1928(昭和３)年４月11日	子供	男児用鳥打帽	ホームスパン、ビロード、スコッチなど
1928(昭和３)年７月20日	子供	５～６歳用パジャマ、室内着でも可 (寸法調整により５～６歳前後でも可)	タオル地
1928(昭和３)年９月７日	子供	秋口にふさわしい14～15歳用女児ワンピース	薄地毛織物
1929(昭和４)年１月22日 1929(昭和４)年１月23日	婦人	婦人用パジャマ	本ネル厚地 綿ネル
1929(昭和４)年２月23日	子供	７～８歳用女児コンビネーション下着 (寸法調整により２歳～大人まで)	白イタリヤネル、日本ネル
1929(昭和４)年３月１日	子供	７～８歳用女児シュミーズとブルーマー	白イタリヤネル、本ネル、キャラコ、 ネンスークの類
1929(昭和４)年３月13日 1929(昭和４)年３月14日	子供	春先の７～８歳児用女児ワンピース	薄地毛織物
1929(昭和４)年４月18日	子供	春先の３～４歳女児ワンピース (寸法調節により１、２歳から６、７歳女児、１、２歳男児まで可)	薄地毛織物
1929(昭和４)年４月27日	子供	３～４歳児用ロンパース (寸法調整により２歳でも可)	本ネル、セル、(夏向き、富士絹、ポプリン、ギンガム、スポンヂクロース、コレアンクロース、トプラルコ)
1929(昭和４)年５月11日 1929(昭和４)年５月14日	子供	３～４歳から５～６歳用男児用ブラウスと 肩紐付きパンツ	ブラウス、本ネル、セル パンツ、毛織物
1929(昭和４)年９月３日	子供	５～６歳児用パジャマ	タオル地、スポンジクロース ラテンクロース類
1931(昭和６)年２月25日	婦人	ブラウス二種類	毛織りのジャージ、薄い毛織物
1931(昭和６)年４月18日	子供	１～２歳用スーツ	薄い毛織りジャージ、富士絹、スパン・ クレープ
1939(昭和14)年８月24日	婦人	髪用編みネット	穴糸、太めの糸
1940(昭和15)年２月６日	婦人	防寒用スパッツ	洋服の裁ち落布(織方の密な羅紗物)
1940(昭和15)年２月７日	婦人	レギンスとアフタヌーン用スパッツ	伸縮のきく柔らかい羅紗物、 サンクレープのような厚手の絹
1940(昭和15)年４月６日	婦人	若い人向き春用ジャケット	古い男ズボン
1940(昭和15)年５月７日	子供	外出用ジレとハンドバッグ	布指定なし (記事掲載作品はクロス刺繍用薄地キャンバス)
1940(昭和15)年12月21日	子供	４～５歳用靴	婦人用冬帽子
1941(昭和16)年３月７日	婦人	スーツ	古いセルの着物
1941(昭和16)年４月９日	婦人	靴	固いウール、フエルト、(古スリッパ)
1941(昭和16)年４月10日	婦人	サンダル	ウール、フエルト、(古スリッパ) ボール紙
1941(昭和16)年４月11日	婦人	サンダル	麻小布、フエルト、(古スリッパ) ボール紙
1941(昭和16)年５月21日	婦人	ツーピース	女学校時代の制服
1941(昭和16)年７月12日	婦人	ワンピース(ツーピースでも可)	布指定なし
1941(昭和16)年７月18日	婦人	袖と替カラー２種類	布指定なし
1941(昭和16)年７月28日	婦人	スカートとブラウス	布指定なし
1941(昭和16)年11月22日	子供	上着、パンツ、ハンティング、手袋	古い男物毛メリヤスシャツ
1941(昭和16)年12月２日	婦人	防寒用長靴	古い男物毛糸靴下、フエルト、ボール紙
1942(昭和17)年７月17日	婦人	下着２種	配給晒

３．結果及び考察

３－１．新聞記事の調査

記事の数は、1926（大正15）年12月７日から、1942（昭和17）年７月17日までに34回掲載されていた（表１参照）。

記事の内容としては、34回掲載記事の中で、31テーマが取り上げられていた(表２参照)。31テーマを服、小物、パジャマ、下着の４つに分類し、それぞれ子供と婦人に分けて８項目に分ける。それぞれの割合は、子供服29%、婦人小物25.8%、婦人服19.4%、子供小物9.7%、子供パジャマ6.5%、子供下着と、婦人パジャマ、婦人下着がそれぞれ3.2%であった（図１参照）。子供服と婦人小物がそれぞれ約３割を占めるが、肝心の婦人服は意外に少なく２割に満たない。さらに、杉野学園創立時代の1926（大正15）年12月７日から1931（昭和６）年４月18日までの14テーマの記事と８年間の中断を経て戦時下における1939（昭和14）年８月24日から1942（昭和17）年７月17日までの17テーマの記事とでは、内容が大きく違うことがわかる。製作物に関しては、前半の記事である創立時代の14テーマの記事においては、子供服57.2%、子供パジャマ14.3%、子供小物と子供下着、婦人服、婦人パジャマがそれぞれ7.1%であった（図２参照）。子供服が５割以上を占めていることがわかる。

前半の記事が書かれた時代は、母親は和服を着ており、婦人服を着る習慣が社会に根付いていない状況であった。しかし家庭生活の合理化や欧米化を目指した「生活改善運動」の一環として「服装改善運動」[10]等が行われ、洋装化も奨励されている中で小学校段階での制服を基にした子供の洋装化は進んでおり、親の子供服への関心は高まっていた。このため記事の内容も家庭でできる洋裁として子供服を扱ったものが多くなっていたと思われる。洋裁講座の内容には、子供服の寸法を調整し対象者の年齢層を広げることができることを冒頭部分で取り上げたもの(表２参照)があり、より多くの家庭の主婦に関心をもってもらえるよう配慮していたことがわかる。

後半の17テーマの記事においては、婦人小物47%、婦人服29.4%、子供小物11.8%、子供服と婦人下着がそれぞれ5.9%であった（図３参照）。婦人小物が約５割を占めていることがわかる。後半の記事が書かれた時代は、戦時下の時代であり、1939（昭和14）年８月24日の記事で取り上げた髪用ネット（表２参照）は、当時のパーマネント禁止に向けた社会的風潮の中で考案されたものである。さらに1941（昭和16）年４月９日、10日、11日の各記事で取り上げた靴（表２参照）は、皮革の制限で婦人靴の入手が困難となった中で考案されたものである。この時期の記事は、使用済みの製品をリサイクルした更生品を扱ったものが多くなっている。杉野芳子は、正面から自粛ムードの社会的風潮に対抗するのではなく、アイディアを駆使し、厳しい社会経済状況においても、せっかく根付き始めた洋装の普及化が中断しないように、読者が自分なりの工夫ができる製作物を考案し、一般女性に啓蒙していたことがわかる。

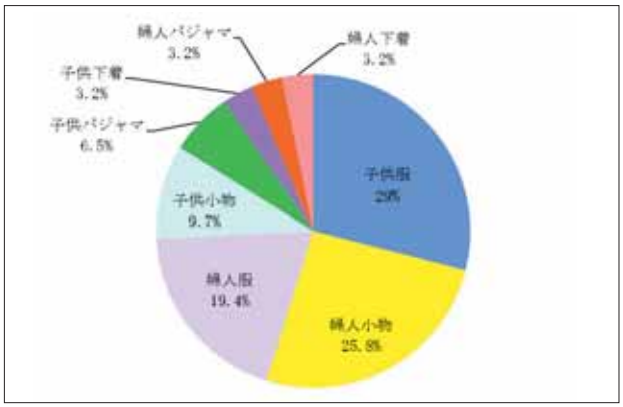


図１　全体のテーマ別分類

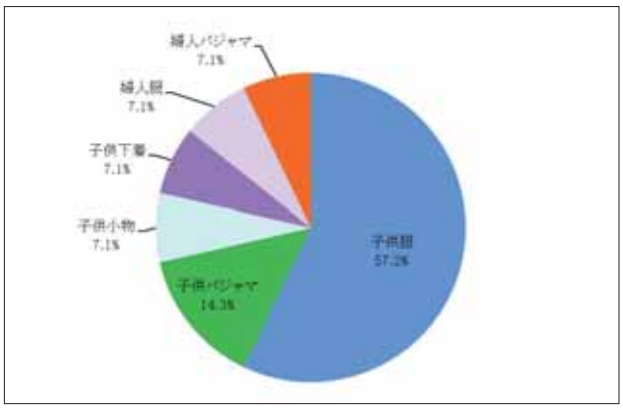


図２　1926(大正15)年から1931(昭和６)年までのテーマ別分類

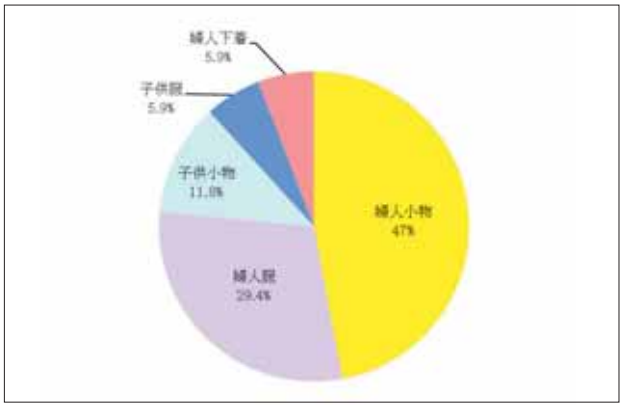
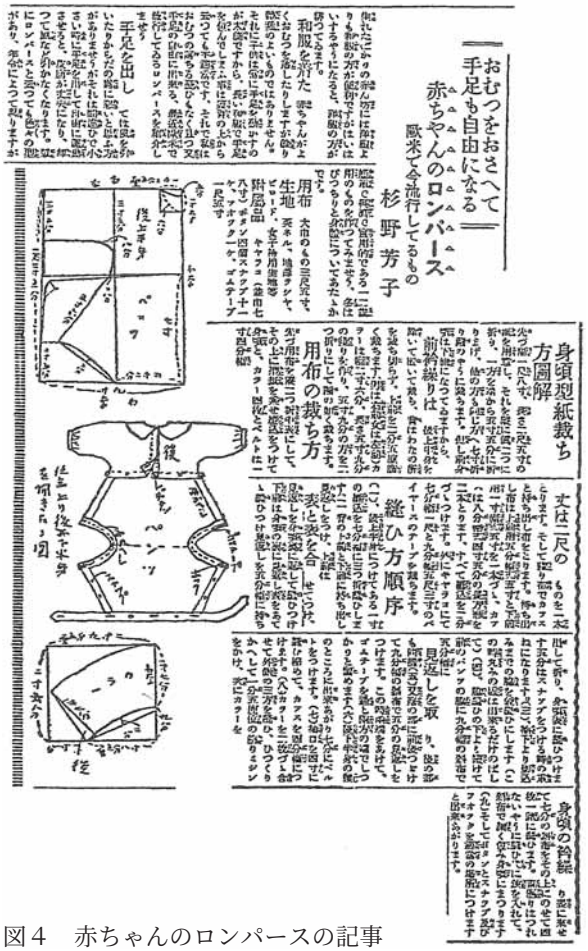


図３　1939(昭和14)年から1942(昭和17)年までのテーマ別分類

３－２．製作

３－２－１　製作の手順

最初の洋裁講座の記事である1926（大正15）年12月７日の「赤ちゃんのロンパース」を選び、実際に製作を試みる。（記事の文章で旧仮名遣いで書かれ、わかりにくい箇所については、現代仮名遣いに直して引用する。）


おむつをおさへて手足も自由になる
赤ちゃんのロンパース
歐米で流行してゐるもの
杉野芳子

身頃型紙裁ち方圖解

用布の裁ち方

縫ひ方順序

図４　赤ちゃんのロンパースの記事

記事の構成は、今回製作するロンパースについての説明、用布、生地、付属品、型紙、裁ち方、縫い方の順序で記載されている。

記事に出てくる寸法表示は、「尺」が用いられているが具体的表示がない。この時代に「尺」を用いたものは、着物を仕立てる時の「鯨尺」（１尺は37.88cm）[11]と木工や建築で用いる「曲尺」（１尺は30.3cm）[12]がある。この後の洋裁講座の記事においては、「鯨尺」と表記しているものが多いが、一部分に「曲尺」としたものもある。結城親学が著書の中で用いた寸法表[13]と洋裁講座の記事の寸法を比較すると、今回の記事では「鯨尺」を用いていることが推測される。

ウエスト原型寸法表

鯨尺単位分

年齢	一	二	四	六	八	十	十二	十四
ナイズ 吋	19	20	21	23	24	25	27	30
鯨尺	13	13½	14½	15½	16	17	18	20
頸圍	68	70	72	74	76	82	88	92
胸圍	130	135	145	155	160	170	180	200
腹圍	140	140	145	150	155	160	165	170
袖深	30	31	33	35	37	39	41	44
背丈	53	56	64	71	75	81	85	89
肩巾	62	64	67	71	73	78	82	88
背巾	60	62	64	66	70	74	78	84
胸巾	56	58	60	66	72	78	82	88
乳丈	81	83	93	98	104	112	121	125
あご下	55	56	65	70	74	78	85	90
越肩	125	130	147	158	167	181	192	202
腕圍	73	75	82	85	87	90	97	104
ドレス總丈	110	120	135	150	170	190	205	220

単位センチメートル

年齢	一	二	四	六	八	十	十二	十四
ナイズ	49	51	55	59	61	65	69	76
頸圍	25½	26½	27½	28	28½	31	33½	34½
胸圍	49	51	55	59	61	65	69	76
腹圍	53	53	55	57	59	61	62½	65
袖深	11½	11½	12½	13	14	14½	15½	16½
背丈	20	21	24	27	28½	30½	32	33½
肩巾	23½	24	25½	27	27½	29½	31	33½
背巾	22½	23½	24½	25	26½	28	29½	31½
胸巾	21	22	22½	25	27½	29½	31	33½
乳丈	30½	31½	35	37	39½	42½	46	47½
あご下	20½	21½	24½	26½	28	29½	32½	34
肩越	47½	49½	55½	60	63½	68½	72½	76½
腕圍	27½	28½	31	32½	33	34	36½	39½
ドレス總丈	40	45	50	55	64	72	77	83

袖寸法表

鯨尺（分）	センチメートル	年齢
42	16	一
46	17½	二
55	21	四
64	24	六
73	27½	八
82	31	十
91	34½	十二
100	38	十四

ヅロース寸法表（単位センチメートル）

年齢	一	二	四	六	八	十	十二	十四
腰圍	51	51	55	59	61	65	69	76
腿丈	25½	26	27½	28	28½	31	33½	34½
また下	5½	5½	6½	7½	9	10	12	13

（鯨尺単位分）

腰圍	腿丈	また下
135	67	14
135	69	15
145	73	17
155	78	19
160	87	23
170	97	27
180	108	31
200	120	35

図５　結城親学の鯨尺・センチメートル寸法表

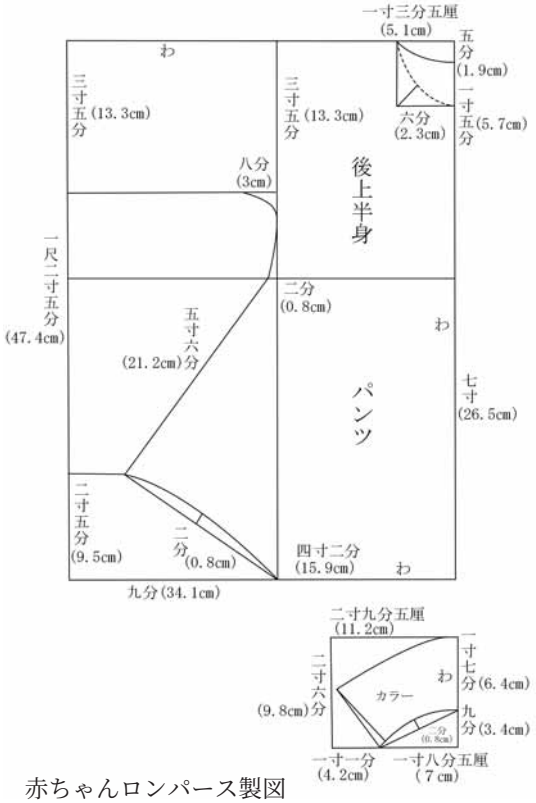


図６　赤ちゃんロンパース製図

用布、生地、付属品については、次のように記載されている。
「用布　大巾のもの[14] 3尺5寸
生地　英ネル、地薄ラシャ、ビロード、女子袴用生地等
付属品　キャラコ（並巾[15] 7、8寸）、ボタン4個、スナップ11個、フォック1個、ゴムテープ1尺5寸」

掲載された生地のそれぞれの特徴は次の通りである。
英ネル（フランネル）
毛織物の一つ。紡毛糸で荒く織った柔らかい織物。フランネルを略してネルとも言い、綿ネルに対して毛織物を本ネル、英ネルともいう。
縦糸、緯糸とも紡毛糸の10～20番手単糸を使い、平織、2/2綾織にして起毛した織物である。[16]

地薄ラシャ
起毛した紡毛織物の一つ。組織は平織、綾織、朱子織、二重織と色々あるが、縦糸、緯糸に紡毛糸を用い、織った後に起毛させた地合いの織物である。[17]

ビロード
ベルベットともいう。縦糸でパイル地を作る縦パイル織物で、そのパイルをカットして織物の表面を毛羽で覆ったもの。[18]

女子袴生地（主にサージ）
梳毛織物の代表的なものとして知られている。縦糸、緯糸には36～56番手双糸を用い、組織は2／2綾織で、綾線はよこ方向に対して大体45度の角度で走っているのが特徴。[19]

今回の製作にあたっては、倉敷紡績株式会社で織られた本英ネル（大幅72cm）を使用する。

図7　英ネル

図8　英ネル実寸大

表3　生地の物性

素材名		本英ネル（フランネル）
材質（%）		毛100%
組織		変化平織
密度（本/cm）	タテ	20本/cm
	ヨコ	14本/cm
厚さ（mm）		平均0.28mm
目付（g/m²）		155.2g/m²
糸の太さ	タテ	2/62
	ヨコ	2/62
製作		倉敷紡績株式会社

測定器
密度……分解鏡
厚さ……マイクロメーター
目付……電子デジタル天秤
糸の太さ……電子デジタル天秤

付属品については次のものを使用する。
キャラコ……（90cm巾のものを並巾にして使用）
ボタン……（15mm）
スナップ……（10mm）
スプリングホック（No.3）
ゴムテープ……（8mm巾）

身頃型紙裁ち方図解
（現代仮名遣いに直して引用する。）

「先ず幅一尺八寸、長さ二尺五寸の紙を用意し、それを縦に真二つに折り、一方を端から五寸五分に折りまげ、他の方も同じ方へ七寸折り図のように裁ちます。」

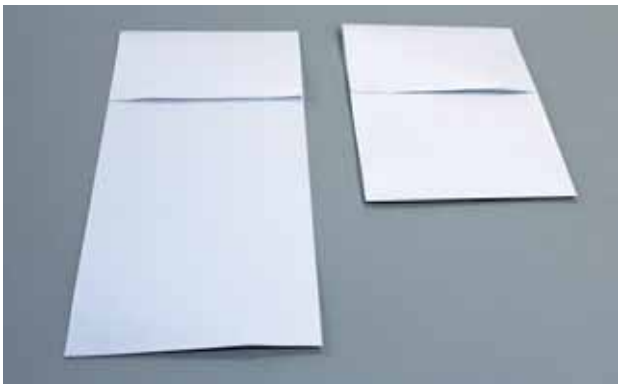


図９　型紙・製図準備

図10　身頃製図

「但し前身頃は下側になっていますから、前衿繰りは後上半身を除いておいて裁ち、」

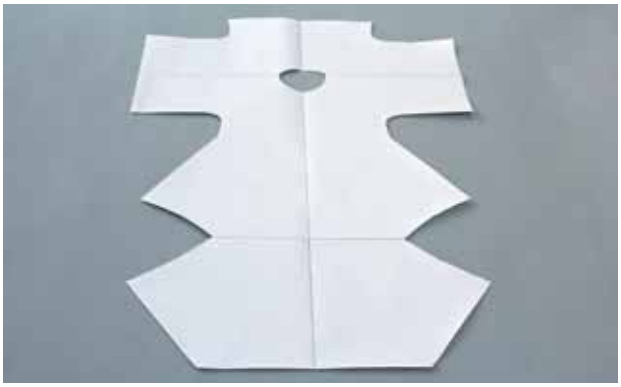


図11　身頃型紙

「背はわの所を裁ち切らず、上前を二分五厘広く裁ちます。（男は右前女は左前）」

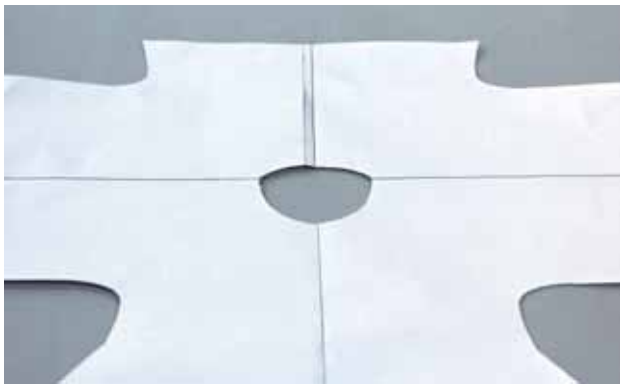


図12　後ろ身頃型紙の拡大

「カラーは幅二寸六分、長さ五寸九分の残りを作り、五寸九分の方を二つ折りにして図のごとく裁ちます。」

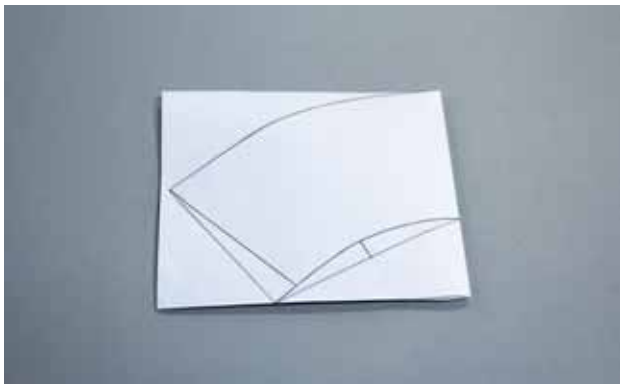


図13　衿型紙・製図

用布の裁ち方
「先づ用布を縦二つ折り中表にして、その上に型紙を乗せ縫い代をつけて身頃と、カラー四枚とベルトは一寸四分幅丈は二尺のものを一本とります。」

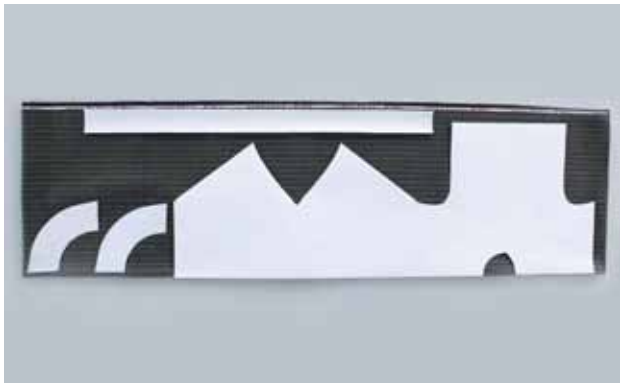


図14　用布の裁ち方

「そして残り布でカフスと持ち出し布をとります。持ち出し布は上前用五分幅丈五寸と下前用一寸幅丈五寸を一本づつ、カフスは八分幅丈四寸五分の長方形を二本とります、すべて縫い代を二分づつつけます。」

図15　小物裁ち方

「外にキャラコにて七分幅一尺と九分幅五尺三寸のバイヤースのテープを裁ちます。」

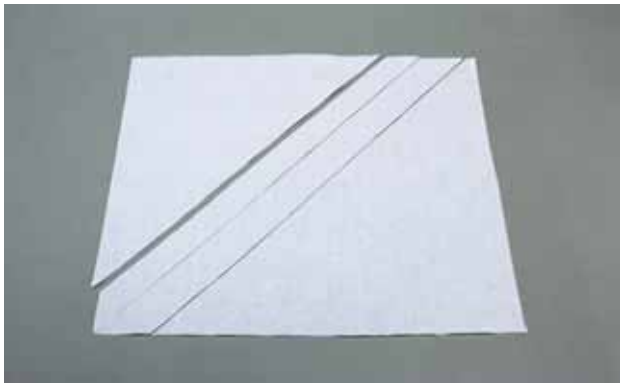


図16　付属品裁ち方

縫い方順序

「（1）後上半身につけてある一寸の縫い代を七分幅に三つ折り縫いします。」

図17　後ろ身頃裾始末

「（2）背の上前と下前に持ち出し見返しをつけ、上前は表と表を合わせてつけ、見返しを身頃裏に返して縫いつけ下前は身頃の裏に見返し表をあてて縫いつけ見返しを五分幅に持ちだして折り、身頃表に縫いつけます。五分はスナップを着ける時の重ねになります。」

図18　後ろ身頃打ち合い始末

図19　後ろ身頃打ち合い仕上がり

「（3）袖下より切り込みまでの脇を袋縫いにします。（このとき丸みの所は出来るだけ伸ばして）」

図20　袖下縫い

「（4）脇縫いの下より続けて前のパンツの脇に九分幅の斜布で五分幅に見返しを取り、後ろの部も同様」

図21　パンツ脇始末

「（5）又裾の部に前後つづけて九分幅の斜布で五分の見返しをつけます。このとき両端を開けて、ゴムテープを通し両方の端でしっかりと止めます。」

図22　パンツ裾口始末

「（6）後下半身の腰のところに出来あがり七分にベルトをつけます。」

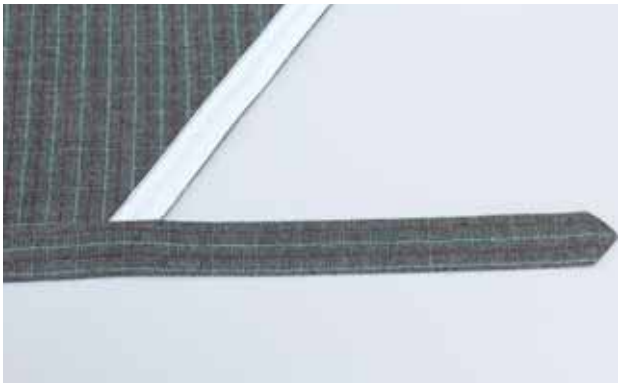


図23　ベルト付け

「（7）袖口を四寸に縫い縮めて、カフスを四分幅につけます。」

図24　袖口始末

「（8）カラーを二枚づつ合わせて外側の三方を縫い、ひっくりかえして一分五厘位の飾りミシンをかけ、」

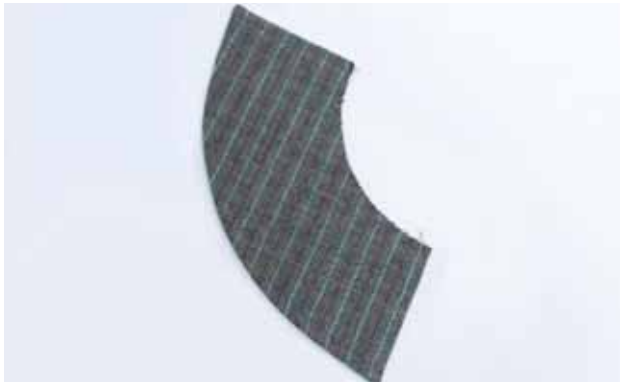


図25　衿作り

「次にカラーを身頃の衿繰り表に乗せて七分の斜布をその上にのせて四枚一緒に縫います。首回りはつれないように縫い代にはさみを入れて、斜布で細く包み身頃にまつります。」

図26　衿付け

「（9）そしてボタンとスナップ及びフォックを適当の場所に付けますと出来あがります。」

図27　仕上がり

図28　仕上がり服　後ろ

図29　仕上がり服　前

3－2－2．製作の結果

身頃型紙裁ち方図解については、製図は洋裁の知識がない人にも分かりやすい「囲み製図」になっており、また直線が多く製図が引きやすい。

型紙を折ってから製図を書く方法については、型紙を切った時に形のイメージを持ちやすい。カラーの製図については、一箇所寸法がなくわかりにくい。しかし、これは身頃の衿つけのカーブ線の描き方により寸法が変わるところでもあるので、各自が後で調整したものと思われる。

用布の裁ち方については、型紙は見開きでできるが、裁断では布を半分に折ることで、型紙も半分に折ることがわかる。

縫い代については、すべて二分と書かれているが、次の縫い方順序（1）において、後上半身一寸の縫い代と書かれ、例外となっているので、注意を要した。

縫い方順序については、（3）において、「切り込みまでの脇を袋縫にする」と記載されているが、制作する段階で切り込みの位置がわからない。実際に袋縫いすることにより、切り込みの位置がわかった。

（6）のベルトにおいては、記事の図をみると三角形の形になっているが、その寸法については指示がなく、各自が自由に製作したものと思われる。

実際に製作した結果、ショールカラーの付いた後ろあきロンパースを製作することができた。デザイン面からショールカラーをつけたことにより可愛らしさを出し、後ろから回したベルトで前身頃にアクセントをつけたものになっていると思われる。またパンツの裾の布をわ裁ちにすることにより、再現した形は、記事のタイトル通りおむつの落下防止になっている。袖の形やパンツの裾口の形からは手足も自由になり、身体運動の確保に役立っていたと思われる。

4．まとめ

杉野芳子が読売新聞に34回連載した洋裁講座のうち、前半の杉野学園設立時代の記事は、主婦が関心をもった子供服を主な製作物とし、後半の戦時下時代の記事は、一般家庭でも入手できる材料を活用した婦人小物を主な製作物としており、それぞれの時代に即して洋装の普及に努めようとしていたことがわかる。

実際に製作した結果、再現した当時の形から、デザイン面での可愛らしさや機能面での身体運動の確保などの配慮がなされていることがわかった。

なお、杉野芳子は洋裁の普及のために、新聞以外に複数の雑誌に記事を掲載している。例えば昭和４年からは『婦人公論』に洋裁講座と洋裁相談を掲載してい

た。[20]今後は、これらの雑誌に掲載した記事についても収集して調査する。

5．註

（1）西木野正夫が戦後の昭和26年から30年迄の５年間に銀座で調査した盛夏の女性の服装統計によれば、５年間を通じ和服は５パーセント、他はすべて洋服ということである。朝日新聞　昭和30年９月26日　朝刊３面.

（2）『現代人物事典』　朝日新聞社編　1977 pp. 690－691.

（3）『日本人名大事典　現代』　平凡社　1979 p. 411.

（4）杉野芳子　『炎のごとく』　講談社　1976 p. 79.

（5）1926（昭和元）年当時の読売新聞の購買部数は約９万部であった。「データブック読売2010」読売新聞東京本社広報部　2009　p. 211.

（6）『杉野学園50年史』　学校法人杉野学園　1975 中絵5.

（7）杉野芳子　前掲書　p. 81.

（8）杉野繁一　『私学経営に生きる』　日本書房 1958　p. 80.

（9）「簡単なアウトラインだけに寸法を書き込んだ裁断図に、縫い方をそえた「囲みもの」でしたが、これがたいへんな人気をもって迎えられ…」「ドレスメーキング」　鎌倉書房 1955 No. 57　p. 109.

（10）夫馬　佳代子『衣服改良運動と服装改善運動』家政教育社　2007　p. 31.

（11）石川英輔　『ニッポンのサイズ（身体ではかる尺貫法）』　講談社　2012　p. 33.

（12）同上　p. 34.

（13）結城親学　『可愛らしき男女子供服の縫方』東洋図書　1924　p. 235. p. 236. p. 238. p. 241.

（14）大巾　布帛の幅広いもの。和服地では１幅に対して２幅（約70センチメートル）のものをいい、洋服地では普通ダブル幅（約140センチメートル）のものをいう
『広辞苑第一版』岩波書店　1930　p. 269.

（15）並巾　我国従来の普通の織物の幅　36センチメートル前後
『広辞苑第一版』岩波書店　1930　p. 1617.

（16）装道着物学院　『きもの用語大辞典』主婦と生活社　1978　p. 172.

（17）大島博　『現代衣料事典』　洋品界　1969 p. 83.

（18）一見輝彦　『ファブリックの基礎知識－衣服の素材と生地－』　株式会社チャネラー　1979 p. 192.

（19）同上　p. 161.

（20）「ドレスメーキング」鎌倉書房 1955 No. 57 p. 109.

6．参考文献

（1）杉野芳子　『炎のごとく』　講談社　1976.

（2）「ドレスメーキング」鎌倉書房 1955　No57－1956　No58　No59.

（3）「D.M.J．会誌」　1934　No１－1943　No20.

（4）岡村節子　『日本の子ども服物語』　チャネラー 2003.

（5）昭和女子大学被服研究室　『近代日本服装史』近代文化研究所　1971.

（6）村田祐子「大正期における洋装子供服について」大谷女子短期大学紀要　No. 48　2004.

（7）村田祐子「昭和初期における子供洋服について」大谷女子短期大学紀要　No. 53　2010.